2026年11月号（No.43）

多気町立図書館だより



『とべバッタ』田島征三/作
偕成社（Eタ）

TEL:0598-38-1133（多気図書館）
TEL:0598-49-4500（勢和図書館）
https://www.town.taki.mie.jp/library/index.html

田島征三さんがやってくる！



『だいふくもち』田島征三/作
福音館書店（Eタ）

日時：12月6日（日）13時30分～ 場所：多気図書館

『とべバッタ』や『だいふくもち』などの絵本作家、田島征三さんが多気町にやってきます！
制作過程のお話や、田島さんによるおはなし会も。
子どもから大人まで楽しめます。ぜひご参加ください！

※申し込みが必要です
詳細はチラシをご覧ください



『田島征三の「あ」』
田島征三/絵と言葉
大西暢夫/写真
佼成出版社（726.6タ）

多気図書館

11月のカレンダー　□：休館日

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7 おはなし会
8 臨時休館	9	10	11	12	13 おはなし おもちゃ	14 おはなし ぽけっと
15	16	17	18	19	20 赤ちゃん おはなし会	21
22	23	24	25	26	27 勤労感謝日	28 おはなし ぽけっと
29	30	おはなし会　10：30～				

ブックスタート（のびのび）11/19(木)10：00～

～お知らせ～
11月8日（日）は、おいないまつりにより図書館前が大変混雑いたします。
そのため臨時休館とさせていただきます。
ご理解のほど、
よろしくお願いいたします。

勢和図書館

11月のカレンダー　□：休館日

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8 ほんとカフェ	9	10	11	12	13	14 おはなし会
15	16	17	18 おはなし会（0～3歳）	19 音読講座	20	21
22	23	24	25	26	27	28 おはなし会
29	30 勤労感謝日	おはなし会　10：30～				

～ イベント 紹介～　詳しくはチラシをご覧ください！

●ほんとカフェ＆ピアノコンサート
と　き：11月8日(日) 13時～16時
コラボ：飯高工房草餅部さん いもはるさん
コーヒー：金川珈琲さん
ピアノ：中原姉弟(ピアノ連弾)
コンサートは14時～

●音読講座～健康寿命、延ばします！～
と　き：11月19日(木) 10：00～11：30
※要申込 申込受付11月5日(木)10：00～

FB・Insta→「多気町立勢和図書館」か「seiwalib」で検索

11月のおすすめ本



『図解　眠れなくなるほど面白い富士山の話』 富士学会：監修　日本文芸社（291.5ズ）

日本一高い山、富士山。でもただ高いだけの山ではありません。富士山にまつわる、知ってビックリするような話が次々登場。知れば知るほど、「へえ～」が止まらない。
三重県からでも条件が整えば、富士山の見えるところがあるんです!!
空気が澄んでくるこれからが、くっきり、きれいに富士山が見える季節だそうです。

『「戦わない」から、うまくいく。』　稲垣　栄洋：著　文響社（470.4イ）

踏まれてもなぎ倒されても、生き続ける雑草たち。一見強くて逞しい！と思われがちですが、実のところ雑草たちは頑張って生きているわけではないようです。
雑草たちの健気で、置かれた状況を受け入れる姿を見習いたくなる。
植物学の話なのに、どこか哲学的な、そんな一冊です。





『煮魚をつくったら、人生の悩みがじわじわ消えた』 川内　イオ：著　大和書房(590.4ヵ)

「人生に悩んでいます…」そんな時は、まさかの煮魚?!
45歳男性の著者が、お金・片付け・洗濯・料理など、家事に向き合ってみたらあら不思議！暮らしがちょっと整って、心まで軽くなっていく。煮魚から始まる、ちょっと笑えて、じわじわ元気が出てくる。さて、あなたも今夜、煮魚を作ってみる？

『SDGs時代の食べ方』　井出　留美：著　筑摩書房（611イ）

ハンバーガー1個に使われる水の量は、材料生産過程を入れるとなんと3000リットル！消費期限が来ていないのに、買えなくなるお弁当…なぜ？
食欲の秋、おいしそうな食べ物に関心が向きがちですが、その陰でたくさんの食料が捨てられています。おどろきの食品ロス事情が数字でよく分かる、考えさせられる一冊です。





『隣の畑は青々と』 羽岐　秋子：著　U-NEXT（F913.6ハ）

代々農家を続けてきた農園主。農家に婿入りした肩身の狭い婿。移住し自分たちの店を構えた夫婦。
後継者問題、労働問題などいろんなことが思う通りにはいかないし、何かが大きく変化しすぐに解決するわけではないけれど、それでも目の前のことに必死に取り組みながらこの地で生きていく――。

『つむじ風食堂の夜』 吉田　篤弘：著　中央公論新社（F913.6ヨ）

東西南北、あちらこちらから風が吹きつのり、いつもつむじ風が廻っている十字路。その角にある食堂ののれんに店名はないのだけれど、つむじ風に誘われ、巻き込まれ？訪れる客の誰もが「つむじ風食堂」と呼ぶようになって…。
著者による詳細な作品語り（解説）は、本編読後のお楽しみに！

